



2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 大王製紙株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 社長執行役員 若林 頼房  
(コード番号 3880 東証プライム)  
問 合 せ 先 経営管理本部 経理部長 張能 太子  
(TEL. 03-6856-7513)

## 関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損の計上（個別決算）ならびに 2025 年 3 月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は2025年3月期の個別決算において、関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損を特別損失として計上しました。また、2025年2月14日に公表いたしました2025年3月期の通期連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異も生じたので、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損の計上について

当社が保有する関係会社出資金のうち、海外連結子会社である大王(南通)生活用品有限公司（以下、EICN）の実質価額が著しく低下したため減損処理を行い、関係会社出資金評価損 17,763 百万円を特別損失に計上しました。

また、同じく海外連結子会社である Elleair International Turkey Kiş isel Bakı m Ürünleri Üretim A.Ş .（以下、EITR）については2025年3月6日の開示文書「連結子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」に記載の通り当該子会社の株式を譲渡する契約を締結したため、2025年3月期末において当社が保有する株式簿価を譲渡価額まで減額を行い、関係会社株式評価損 18,237 百万円を特別損失に計上しました。

なお、当関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損は、連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

#### 2. 2025 年 3 月期通期連結業績予想と実績値の差異（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

|                            | 売上高            | 営業利益          | 経常利益         | 親会社株主に<br>帰属する<br>当期純利益 | 1 株当たり<br>当期純利益 |
|----------------------------|----------------|---------------|--------------|-------------------------|-----------------|
| 前回発表予想（A）                  | 百万円<br>680,000 | 百万円<br>11,500 | 百万円<br>5,000 | 百万円<br>△7,000           | 円 銭<br>△42.07   |
| 今回実績値（B）                   | 668,912        | 9,807         | 4,530        | △11,197                 | △67.29          |
| 増減額（B-A）                   | △11,088        | △1,693        | △470         | △4,197                  |                 |
| 増減率（%）                     | △1.6%          | △14.7%        | △9.4%        | -                       |                 |
| （ご参考）前期実績<br>（2024 年 3 月期） | 671,688        | 14,367        | 9,622        | 4,472                   | 26.89           |

### 3. 差異の理由

2025 年 3 月期通期の連結業績につきましては、売上高は概ね予想値どおりに進捗したものの、営業利益及び経常利益は中国事業をはじめとする海外事業での販売不振を業績堅調な国内事業で補いきれず、予想値を下回る実績となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益に関しては 2025 年 3 月 6 日に公表いたしました海外事業の構造改革に伴う費用及び損失 7,292 百万円（EICN の第 1 工場売却に係る減損損失 4,013 百万円、及び EITR の株式譲渡に係る損失見込額 3,278 百万円）を事業構造改善費用として特別損失に計上したことに加え、EICN においては第 1 工場売却を契機にあらためて減損の兆候を慎重に検討した結果、第 2 工場についても追加の減損損失 2,694 百万円を認識したこと等により特別損失が増加しました。

国内子会社におけるノンコア資産の売却が当初想定を上回る価格で決済したことによる特別利益の増加、及び EITR 株式の評価損に対し連結決算上は繰延税金資産 5,225 百万円を計上したものの親会社株主に帰属する当期純利益は△11,197 百万円となりました。

以 上